

6 必要資材等

ヒアリの同定、駆除、生息調査等を行うにあたって必要となる主な資材は次のとおりです。いざという時に使えるよう、可能な範囲で常備しておきます。

<同定関係>

- ・ルーペ（10～20倍程度）
野外でヒアリを見分ける場合などに使用します。
- ・実体顕微鏡（50倍程度のもの）
触角などヒアリの特徴を観察するのに適しています。
- ・ピンセット（先の細いもの）又は綿棒
ヒアリのサンプルを採取する際に使います。綿棒はぬらして使います。
- ・吸虫管
ヒアリのサンプルを採取する際に使います。昆虫採集用具店等で購入できます。
- ・消毒用アルコールスプレー
生きたアリ個体を捕獲する際に、個体に噴霧して動きを鈍くします。
- ・サンプル瓶
ヒアリのサンプルを保管します。蓋付きのガラス小瓶やフィルムケースでも代用できます。
- ・70%濃度以上のアルコール（又は消毒用エタノール）
サンプル管に入れてヒアリを保存します。

<駆除関係>

- ・エアゾール式殺虫剤（即効性）
アリ類が少数の場合などで緊急に殺虫処理する必要がある場合に使います。
- ・液体型殺虫剤（即効性・遅効性）
状況によりエアゾール式殺虫剤が向かない場合などに使います。ただし、飛散が多く生態系への影響が懸念されるため、ヒアリの生息範囲が特定されている場合などに集中的に使います。遅効性のものは、連鎖殺虫効果により、巣内ごとの駆除が見込めます。
- ・ベイト剤（遅効性）
アリが餌を持ち帰ることにより、連鎖殺虫効果が見込めます。安価で設置も簡単ですが、在来アリへの影響も大きいので、予防措置でなくヒアリが同定された後に使います。
- ・くん蒸剤、くん煙剤（即効性）
コンテナ内など密閉した空間で使用することにより、荷物の隙間などに隠れたアリ個体も駆除できます。ただし、専門業者によるくん蒸は取扱いが難しく高価なため、市販のもの（一般家庭用、事務所・厨房用）を他の殺虫剤と併用して使います。
- ・忌避剤
ヒアリ発見時に拡散を防ぐために殺虫剤等と併用して使用します。害虫用の市販のもので可。

<生息調査関係>

- ・粘着トラップ
スナック菓子等を誘引餌として、アリ類を捕獲することができます。害虫調査用にプラスチック製のものが市販されています。